

長崎県の中学生による海外派遣について ～世界へこぎ出せ！長崎っ子応援事業～

ロンドン事務所・パリ事務所

長崎県では、平成 24 年度の新規事業として、長崎県の中学生を海外に派遣し、世界情勢等の学習や現地青少年との交流活動体験等を通じて、語学力、幅広い教養、国際的な視野を身につけ、グローバル社会の中でも活躍できる人材を育成することを目的とした事業を実施しました。また、ロンドン事務所及びパリ事務所はこの事業への支援（訪問先へのアポ入れや懇談会の調整、国際機関やパリ市内のアテンドなど）を実施しました。

長崎県国際課から、事業の様子などの報告をいただきましたので、下記の通り、ご紹介させていただきます。

「世界へこぎ出せ！長崎っ子応援事業」の概要

事業の概要としましては、欧州に拠点がある国連関係機関等の訪問や長崎県と友好関係にあるゼーランド州（オランダ）での交流活動等を実施しました。詳細については、以下のとおりです。

参加対象者：長崎県内在住の中学 2 年生 10 名

派遣期間：7 月 29 日（日）～8 月 6 日（月）8 泊 9 日

訪問国：フランス、スイス、オランダ

国際機関訪問の様子

スイス（ジュネーブ）にある世界保健機関、国際赤十字・赤新月社、国際連合欧州本部を訪問した後に、フランス（パリ）にある経済協力開発機構及び国際連合教育科学文化機関を訪問しました。

なお、経済協力開発機構及び国際連合教育科学文化機関についてはパリ事務所の西村所長補佐に同行していただきました。

① 世界保健機関（WHO）

世界保健機関では、施設を見学させていただいた後、そこで働く日本人職員（医師）の方々から世界保健機構の概要やそれぞれの専門分野について、講義を受けました。初めての国際機関の訪問にもかかわらず、中学生の皆さんは緊張することもなく、次々に活発な質問をしました。それを受ける職員の方々も丁寧に回答していただき、大変なごやかな雰囲気の中で、講義および意見交換が行われました。中学生による質問にあまりにも多く時間を費やし、かつ予定よりも延長してしまい、引率者側で質問を終了させてしまう一コマもありました。

将来はここで働きたいと発言する中学生もいるなど、世界保健機関への訪問は中学生の心に将来の職業への志を高く持たせるきっかけをつくったようです。

② 国際赤十字・赤新月社

国際赤十字・赤新月社では、国際赤十字・赤新月社の職員と赤十字国際委員会の職員に対応していただきました。施設見学の後、職員の方々による講義があり、機関の概要



支援物資に触れる中学生

や業務内容のほか、こういった経緯でこの機関に勤めるようになったかについて、うちとけた雰囲気のもと、話をしていただきました。また、実際の支援物資も用意していただき、現物を目にした中学生は実際に手にとって確認をしていました。国際的な支援活動について考えるすばらしい機会となりました。

③ 国際連合欧州本部

国際連合欧州本部では既存の国連ツアーに参加しました。大会議室、理事会室をはじめ、主要な場所を、英語によるガイドの解説を聞きながら見学しました。専門用語が多く、英語のヒアリングの練習には難しすぎたようですが、国連について全般的に学習できたという点、生の英語に触れることができたという点で大変充実したツアーでした。もちろん、ガイドの英語解説を日本語通訳がきちんと訳していただきましたので、内容も理解できたようです。

また、国際連合諸機構合同監査団の猪又独立監査官と長崎市平和大使を務める猪又氏の夫人の案内で、国際連合欧州本部でちょうど開催されていた、「長崎・広島原爆展」を見ることができました。被爆地長崎の中学生として、被爆の悲惨さを海外で伝える必要性を痛感しました。

④ ジュネーブ国際機関邦人職員会の職員との懇談会

ジュネーブ国際機関日本政府代表部を会場にしてジュネーブ国際機関邦人職員会の職員との懇談会が開催されました。参加者は先ほどの猪又夫妻をはじめ、ジュネーブ国際機関日本政府代表部、世界保健機関、世界気象機関、国際労働機関の職員の方々に、長崎から中学生が来ると聞いて、集まっていただきました。

職員の方々からは、業務の内容、国際機関で働くきっかけ、働くために必要なこと、ジュネーブでの生活などについて話をいただくとともに、中学生からも活発な意見が出されました。

⑤ 経済協力開発機構 (OECD)

環境分野を専門とする日本人職員 3 名が経済協力開発機構の建物の前で、笑顔で迎えてくれました。セキュリティチェックの後、施設の見学に移りました。職員の方々の笑顔のおかげで中学生たちは完全にリラックスして見学できました。

次に場所を移して講義と意見交換会が開かれました。職員の方々は、業務の内容だけでなく、どのような中学生だったか、なぜ国際機関で働くようになったか、パリの生活はどうかなど、親身になって話していただき、中学生は時間が経つのを忘れ、会話を楽しんでいました。

また、中学生から事前に提出してもらっていた環境分野に対する経済協力開発機構への質問について、職員 3 名から回答をいただくことができました。ここでも中学生と職員の方々との活発な意見がかわされ、予定時間をオーバーしてしまいました。ここでの訪問は、環境問題について考えさせるだけでなく、国際機関を身近に感じることができるいい経験になりました。

⑥ 国際連合教育科学文化機関 (UNESCO)

最初に英語でのガイド解説つきの施設見学ツアーに参加しました。もともと長崎の浦上天主堂にあり、原爆で頭が欠けた天使の頭像など、長崎にゆかりのあるものも見学することができました。国際連合教育科学文化機関のツアーの際の英語は、他と比べると専門用語も少なく、難易度も高くなかったため、中学生にとって英語のヒアリングの勉強にもなりました。

また、その後に行われた、国際連合教育科学文化機関の職員の方々の講義と意見交換会も大変充実したものでした。日本人職員のほか、フィンランド人職員も参加していただきました。中学生が関心の高い「世界遺産」や最近話題になっている「無形文化財」、教育において欠かせない「持続可能な開発のための教育 (ESD)」が講義のトピックとなりました。ここでも中学生たちは活発な質問をし、大変意義のある講義・意見交換会となりました。

まとめ

今回の国際機関訪問では、国際機関で働く職員の方々の話を聞くことで、中学生たちに将来の職業への志を高く持ってもらうきっかけになりました。また、国際機関の職員の方々から頻りに耳にした「国際機関では英語は話せて当然です。併せてフランス語も話せる必要がある。」という言葉が、今後、外国語学習に取り組もうという中学生たちの意欲を高めることと思われま

最後に

長崎県として、初めて中学生を海外に派遣し、国際機関のアポイントをはじめ、当初は不安材料が多かったのですが、ロンドン事務所並びにパリ事務所の職員のおかげですべて計画どおり実施することができました。

また、パリ事務所長や担当職員ご自身、海外で活躍する日本人として、立派な模範例を示していただき、事業の目的である「国際的感覚を持った人材育成」のために大変役に立ちました。特に、国際機関のアポイントは通常とるのが困難であるにもかかわらず、本県



の希望どおりとっていただき、各機関の時間配分も調整していただきました。さらに、担当職員には、パリ滞在中の2日間は早朝からずっとアattendしていただき、国際機関だけでなく、世界遺産についても案内していただきました。

本当にありがとうございます。この場を借りて、御礼を申し上げます。

パリ事務所にて (H24. 8. 1)

長崎県企画振興部国際課
北島 恵子

CLAIR